

香童の窓

平成26年7月 8日
壬生町立稲葉小学校
No.4 文責 鈴木エツ子



いよいよ本格的な夏の訪れとなりました。学校のプールからは、子どもたちの元気な声が聞こえてきます。夏休みまで、あと少しとなりました。一学期のまとめをしっかりとしていきたいと思ひます。

6月27日 授業参観・学年懇談会 お世話になりました

お忙しい中、授業参観・学年懇談会にお越しいただきましてありがとうございました。1年生から6年生まで子どもたちは、「頑張っているところをお家の人に見てもらおう」と朝から張り切っていました。



1年「ぜんぶでいくつ」
たし算の問題を作りました
よく考えました。



2年「夏がきた」
夏らしい言葉を使ってお便り
を書きました。



3年「暑中見舞を書こう」
はがきの使い方を学習
しました。



学習相談学級
「合同レクリエーション大
会」のまとめをしました。



4年「わり算の筆算」
割る数が2けたのわり算ができるよう
になりました。



5年「整数の性質」偶数と奇数の意
味や性質について学習しました。



6年「水泳」クロールや平泳
ぎで泳ぎました。

子育て・親育ち講座

「子育てで大切にしてきたこと」 講師 平野 美恵さん



世界卓球女子団体銀メダリスト平野早矢香さんのお母さんである平野美恵さんにお越しいただいて、お話をうかがいました。

「卓球は余計なことの一つだよ」

子どもには何かスポーツをやらせたいと考えていたが、早矢香さんが「卓球をやってみようかな」と言ったときに、約束したことがある。卓球をやるために今までやっていた宿題ができないというようなことが無後いように約束した。スポーツ選手として活躍できる時間よりも、その後の時間の方がずっと長い。だから、その人の人間性が重要になってくる。卓球だけ強ければいいでは、ダメ。

子育ての中で気づいたり大切にしたりしてきたことがある。早矢香さんは、小学校を卒業して仙台育英中学校に進学し、寮生活を送った。早矢香さんから電話があると、心配のあまり一方的に「どうなの？」と聞いてしまい電話を切られてしまった。子どもの声に耳を傾け、子どもの話を待つて聞くことの大切さを実感した。早矢香さんが小学校5年生の時、クラブの子どもたちとうまくいかないでクラブをやめたいと言った。クラブはやめたいと言ったけれど、卓球をやめたいとは言わなかった。所属クラブを代えることにした。2つのクラブに見学に行き、自分で自身で決めさせた。仙台育英に進学するときもそうだったが、自分の道は、自分で考えて選べた。

3人の子どもがいるが、2番目以降の子どもが誕生したとき、その子にとってのお母さんは、0歳からのスタートになる。3人目の子にとって比較対象がすぐそばにいるつらさもある。自分では自分、誰とも比較されないその子(個)を大切に。子どもの声が聞ける生活の幸せを、そして、今ある子どもとの時間を大切に。

貴重なお話を伺うことができました。

- ・自分も思いました。そのような体験をしたことがあるなあ、失敗したことがあります。勉強になりました。
- ・ぼくは、欲張りすぎると良くないと言うことを知り、ました。
- ・欲望や慢心を一つの道具から考えるなんて孔子先生は、人の心を知っているだけでなく頭の回転も速かったと思う。自分も欲望にとらわれすぎず、慢心にならずにちょうど良い心で生きていけたらと思う。
- ・針生さんは、宥座の器を作るのに14年かかったそうです。どんなに失敗してもあきらめずはだめだということが分かりました。

本校に寄贈いただいた宥座の器は、昇降口に設置して他の学年も自由に体験できるようにしています。

の校開
校学公
学中に
中葉e
葉稲b
稲旧u
旧「T
はしu
んこo
さ起Y
川をて
荒面し
、譜と
おの「
な歌歌
校校し

